



福島市立清水中学校

道徳通信



No.3
令和元年
10月30日

ローテーション授業がスタートしました

前回の道徳通信では、「ローテーション授業」について説明しました。より充実した道徳の授業に向けた取り組みの一つですが、生徒の皆さんはどのように感じているのでしょうか。ローテーション授業を受けてみての感想を生徒に聞いてみました。

- 私は、先生ごとに工夫されているんだと思いました。映像を見せたり、先生とクラスの学級委員で実践したりと、テーマについて考えやすいようにしてくださる先生もいらっしゃいました。これからもローテーション授業で、いろいろな先生の道徳の授業を受けてみたいと思います。(1年生)
- ローテーション授業では、いろいろな先生の授業を受け、いつもとは違った考え方をする場面があったり、たくさんのことをより深く考えたりすることができたように思います。担任の先生以外の先生は、授業の進め方も注目して議論するところもさまざまです。いろいろな立場で「自分だったら・・・」と考え、友達の意見もたくさん聞くことができました。(2年生)
- いつもとは違う先生の道徳の授業を受けて、いつもとは違う視点で物事を見たり考えたりするよい機会になりました。特に、具体的な場面の説明や、その後どうなったのかなど、いつもは考えないことを深く考える授業もありました。他の先生の授業も楽しみです。(3年生)

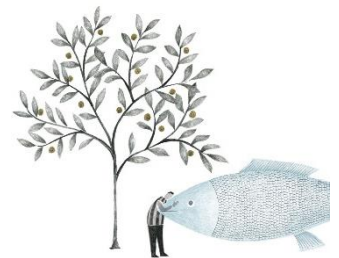


道徳の授業より

1年 魚の涙（公正、公平、社会正義）

魚の世界にもいじめがある。小さな学校の中にも。狭い社会の中にも。

TVチャンピオンで一躍有名になった学者、タレント、イラストレーターのさかなクンが、中学時代に目にしたいじめの体験を魚の世界にたとえて書いた作品。メジナという魚は、海の中では仲良く群れて泳ぐものの、狭い水槽と一緒に入れると、一匹を仲間外れにして攻撃し始めます。いじめられたメジナを別の水槽に避難させても、いじめっ子を水槽から出しても、新しいいじめられっ子といじめっ子は現れます。中学時代は大切な友達ができる時期、小さな籠の中で誰かをいじめたり、悩んでいたとしても、楽しい思い出は残りません。外には楽しいことがたくさんあるのに、もったいないですよ。



【内容】① メジナの行動と人間のいじめの問題に共通する点は、何だろう。

② さかなクンは、どうして「広い空の下、広い海へ出てみましょう。」と言ったのだろう。

③ 魚の世界と人間の世界の違いは、なんだろう。

【生徒の感想から】

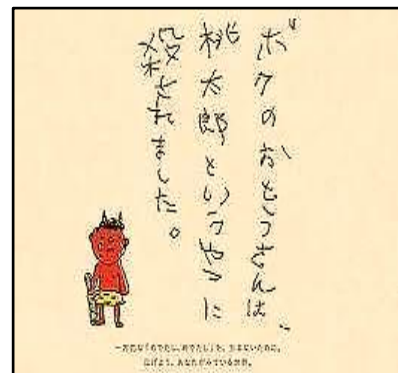
- ・ お互いのことを理解し合い、もしいじめをしている人がいたら、周りの人が声をかけて気づかせてあげることが大切だと思った。
- ・ いじめをなくすには、話し合いや、注意して止めるなど人間だからできる「話す」ということを使っていくことが大切だと思った。
- ・ 人は「十人十色」だから、1人1人の個性・違うところを認め合って、1人1人が足りないところを補い、助け合うことがとても大切だと思った。

2年 「桃太郎」の鬼退治（相互理解、寛容）

一方的な「めでたし、めでたし」を、生まないために。広げようあなたが見ている世界。

右の広告は、ある新聞広告のコンテストで最優秀賞を受賞した作品である。「めでたし、めでたし？」と題されたこの作品は、桃太郎と「鬼の子」のような立場の違いから生じる問題について世間に問いかけている。

桃太郎の鬼退治を題材に、本当の「めでたし、めでたし」になるためにはどのようなことが必要かを話し合う活動を通して、様々な考え方や立場の人どうしがお互いを理解し合うにはどうすればよいのかを考えることができた。



- 【内容】① 「桃太郎」についてあなたもっているイメージは？
② 何についての「めでたし、めでたし」なのだろう？
③ 本当の「めでたし、めでたし」になるためには？

【生徒の感想から】

- ・自分の考えを一方的に押し付けるのではなく、相手の気持ちも考えて話し合うことが大切だと思った。
- ・この広告を見るまでは、「桃太郎はヒーロー」だと思っていたが、視点を変えると違う見え方があることに気付いた。
- ・本当の「めでたし、めでたし」にするためには、いろいろな角度から物事を考える必要があると感じた。
- ・みんなが平等に幸せな気持ちで終わるのが、本当の「めでたし、めでたし」なのではないかと思う。自分だけがよいと思っているだけにならないように、周りの人のことも考えて行動していきたい。
- ・「桃太郎」のお話から、相手の立場で考えることの必要性を感じる時が来るとは思いもよらなかった。

3年 がんばれ おまえ（向上心、個性の伸長）

鏡の中の自分はオレ？おまえ？ あの人には知ってほしい。本当の自分を。

少年は、高校に入学するとクラスでいちばん「おもしろいやつ」を演じ、人気者となります。しかし、そんな少年は、皆が笑うと、心の中で、「がんばれ、おまえ——。」とつぶやくのです。中学時代、暗いやつとよばれて、ひどいいじめに遭っていた少年は、いじめられているのは「おまえ」で、「オレ」は幸せな日々を過ごしていると心に刻み込みます。しかし、みんなと別れ一人になると、ぐったりと疲れ切ってしまうのでした。そして、少年は、同級生の少女を好きになると、そんな面も含めた自分自身を知ってほしいと思うようになります。



- 【内容】① 少年はどうして放課後みんなと別れて1人になるとぐったりと疲れ切ってしまうのか。
② 少年はどうして好きな女の子には「オレ」を知ってほしいのだろうか。
③ 少年の「がんばれオレたち」という言葉にはどんな思いが込められているか。

【生徒の感想から】

- ・自分を作って、演じているから疲れてしまうのだと思う。
- ・自分を理解してくれる人を探すことより、自分を理解してもらおうと努力することが大事だと思う。
- ・自分を素直に相手に伝えることはとても大切だと思った。
- ・素の自分を知ってもらうために「オレ」が「おまえ」を受け入れることが大切だと思う。
- ・素の自分を出して、みんながそれを受けとめてくれることが大切だと思う。
- ・「オレ」も「お前」もいっしょの自分だから2人で頑張ろうという気持ちなのだと思う。
- ・一見お調子者に見える人もいろいろ考えていて、自分を変えられるのはすごいと思った。